

動物管理科 昼間部
ドッグトレーナーコース

2 年生シラバス



学校法人 中村学園

専門
学校

ちば愛犬動物フラワー学園

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科					コース名	ドッグトレーナーコース		
科目名	イヌの行動学					必修・選択必修の別		必修	
実施期	1年	前期	-	時間	後期	-	時間	授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	29 時間
	2年	前期	14	時間	後期	15	時間		
担当講師	千田 純子								
	実務経験	有	獣医師免許取得をはじめ、数々の動物関連の資格取得後、家庭犬のしつけ教室を開業。千葉県動物愛護推進委員として県より委嘱される。						
授業概要	犬の行動と行動の発現の機序、問題行動の原因と対処の方法、予防方法を理解する。動物福祉に配慮した飼養管理やトレーニングを行う上で基礎となる考え方を身につけると共に、問題行動への対処法や必要な知識を身につける。						授業形式	講義	
到達目標	動物行動学の基本を理解し、学習理論や問題行動についての知識を深め、その知識に基づいて、将来ドッグトレーナーとして、効率の良いトレーニングを行ったり、飼い主さんの相談に対応したり、問題行動の予防や行動修正法の指導を行うための基礎的な知識と技能を身につける。								
教科書・教材・服装等	応用動物看護学3 動物行動学・授業内配布プリント								
授業計画時間数	授業内容								
1～2	授業説明・動物行動学の基礎概念・行動の進化と適応								
3～4	維持行動の意味と効果：摂食行動・飲水行動・排泄行動・身繕い行動・護身行動								
5～6	社会行動：群れの社会構造・生殖行動・コミュニケーション行動・敵対行動・親和行動								
7～8	行動の発現の仕組み：行動の動機付けと脳による制御・行動の周期性								
9～10	行動の発達と学習：行動の発達・遺伝的要因と環境要因								
11～13	学習理論：馴化と感作・古典的条件づけとオペラント条件づけ・条件付けの方法と消去・反応形成								
14～15	問題行動：問題行動の概念と定義を理解する。行動コンサルテーション の実際と対処法を学ぶ。								
16～17	攻撃行動：診断方法・対処法・症例を学ぶ								
18～19	不安・恐怖行動：診断方法・対処法・症例を学ぶ。								
20～21	常同行動：診断方法・対処法・症例を学ぶ。								
22～23	その他の問題行動：診断方法・対処法・症例を学ぶ。								
24～25	問題行動の予防の重要性を学ぶ。								
26～27	行動コンサルテーションの実際と練習・後期まとめ								
28～29	定期試験前振り返り。総復習								
成績評価方法	・出席率					定期試験	○	筆記試験	
	・平常点（授業参加意欲など）							実技試験	
	・認定試験							実施しない	
成績評価基準	A評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト90点以上・平常点 優れている							
	B評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト75～89点・平常点 普通							
	C評価	出席率80％以上・定期試験や小テスト60～74点・平常点 やや劣る							
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合							

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科					コース名	ドッグトレーナーコース		
科目名	ペットフード&業界概論（ペットフード）					必修・選択必修の別		必修	
実施期	1年	前期	-	時間	後期	-	時間	授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	58 時間
	2年	前期	28	時間	後期	30	時間		
担当講師	滝口 準一								
	実務経験	有	大手ペットフード会社で40年以上勤務。年間4000件以上のペットに関する相談の対応。現在もペットフードに関する協会で活躍中。						
授業概要	今日ペットに適正な発育、発達、健康維持、増進に不可欠な栄養素を供給するペットフード。適切に日常の食物としてのペットフードが重要な存在であることを認識し、犬・猫の体の構造、生理、栄養に関する基礎知識、関連法規、製造、保管方法等、ペットフードに関する知識を習得する。						授業形式	講義	
到達目標	ペットフードに関する基礎知識を深め、その正しい知識を将来ペットフード販売に携わる際、販売店頭や商談、お客様相談に活かす土台を構築することが出来る。								
教科書・教材・服装等	ペットフード販売士テキスト・復習配布プリント・フードアドバイザープリント								
授業計画時間数	授業内容								
1~3	・ 1.はじめに(学習の展開解説) 2.犬・猫の体の構造と生理: P8~21 1.外形 2.外皮 3.運動器系 4.消化器系について理解する								
4~5	・ 2.犬・猫の体の構造と生理: P22~27 5.呼吸器系 6.内分泌系 7.循環器系 8.生殖器系 9.泌尿器系 10.神経系 11.感覚器系について理解する ・ 3 犬・猫の栄養に関する基礎知識 P28~36 1.犬・猫の食の歴史 2.食事管理 3.栄養素について理解 4.エネルギーとは 5.ライフステージを理解・1)								
6~7	5.ライフステージを理解・2) P27~46 第 3 週-2 ・ 4 ペットフードの関連法規 P48~54 1. ペットフード安全法について 2.ペットフードの 表示に関して								
8~10	3.医薬品医療機器等法について P54、55 4.その他の関連法規にはどのようなものがあるか理解 P56・5 ペットフードについて:P57~62 1.ペットフードとは 2.ペットフードの種類 3.ペットフードの選び方・使い分け・与え方について知る・ 6 ペットフードの製造と保管についてP63~681.製造に関する実施基準の理解 2ドライフードの製造と保管方法								
11~12	・ 6 ペットフードの製造と保管についてP69~83 3.ウェットフードの製造と保管方法 4.中間水分製品の製造と保管方法の理解 5.安全なペットフード製造のための衛生管理とは 6.ペットフード安全法に基づく立入検査とは 7.リスク管理について 8.表示基準の理解								
13~14	・ 7 店頭や動物病院でのQ&Aについて P84~98 1.フードの与え方 2.期限表示 3.フードの保管 4.フードの切り替え 5.ペットフードの分類 6.ペットフードの選び方 7.シニア用ペットフードについて 8.病気や体調管理について 9.サプリメントについて 10.原料や品質について 11.誤飲等のトラブルその他相談の応酬								
15~16	・ 8 ペット飼養の基本マナー: P98~114 1.ペットの迎え入れ方 2.アニマル・ウェルフェア 3.災害時の対応 4.しつけと行動学 5.予防接種 6.去勢・避妊 7.室内外生活、複数のペット飼育 8.留守番 9.旅行 10.健康維持と病気の早期発見 11.病気に関する知識								

17~18	・ 9 エキゾチックアニマル・鳥・観賞魚: P116~140 1.ウサギ 2.フェレット について知る			
19~20	・ 1 0 ペット飼養の効果・効用の認識P141~151			
21~22	レジメP01~12:■犬・猫の体の構造と生理 ■犬・猫の体の栄養に関する基礎知識			
23~24	レジメP25~36:■ペットフードの関連法規 ■ペットフードについて/製造・保管			
25~27	・ 総復習			
28	・ ペットフード販売士認定試験 7/18 ・ 7時限目14:50~15:50			
29~30	基礎編 1.はじめに 2.栄養学 I 栄養と栄養素 II 食性・菜食パターン			
31~32	基礎編 2.栄養学 III炭水化物 IV脂質			
33~34	基礎編 2.栄養学 Vタンパク質 VIビタミン			
35~36	基礎編 2.栄養学 VIIミネラル VIII水			
37~38	基礎編 2.栄養学 IXエネルギー X犬と猫の栄養要求量			
39~40	基礎編 2.栄養学 XI犬種、猫種ごとの標準体重と肥満の見分け方 3.ペットフード Iフードの成り立ち			
41~42	基礎編 3.ペットフード II各種フードの製造・加工法・工場ビデオ			
42~44	基礎編 3.ペットフード IIIフードの表示			
45~46	基礎編 4.サプリメント 5.セールストーク、応酬話法			
47~48	実践編 6.対面アドバイス Iお客様対応 IIフード販売に対するQ&A			
49~50	実践編 6.対面アドバイス IIIお店の接客			
51~52	実践編 7.売り場作り			
53~54	実践編 顧客管理の基本 1.顧客情報の管理			
55~58	・ 後期総まとめ ・ 小テスト			
成績評価方法	・ 出席率	定期試験	前期○	筆記試験
	・ 定期試験や小テスト			実技試験
	・ 平常点（提出物・授業参加意欲など）		後期○	実施しない
成績評価基準	A評価	出席率90%以上・定期試験や小テスト90点以上・平常点 優れている		
	B評価	出席率80%以上・定期試験や小テスト80点以上・平常点 普通		
	C評価	出席率80%以上・定期試験や小テスト60点以上・平常点 やや劣る		
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合		

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科					コース名	ドッグトレーナーコース		
科目名	ペット健康管理学					必修・選択必修の別		必修	
実施期	1年	前期	-	時間	後期	-	時間	授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	29 時間
	2年	前期	14	時間	後期	15	時間		
担当講師	須郷 貴行								
	実務経験	有	小動物臨床獣医師として犬猫の病気に関する予防、治療、検査等に関して指導が可能						
授業概要	将来の職場や在学中に担当するペットの異常を早期発見できるように指導する						授業形式	講義	
到達目標	異常な状態を判別するために必要な知識、予防医療の知識を覚える								
教科書・教材・服装等	授業内スライド								
授業計画時間数	授業内容								
1	健康管理のポイント								
2	全身状態のチェック								
3	予防1（混合ワクチン、狂犬病ワクチン）								
4	予防2（フィラリア予防、ノミダニ予防）								
5	検査1（検便、尿検査）								
6	検査2（血液検査）								
7	検査3（画像検査）								
8	検査4（CT検査、細胞診、血圧測定など）								
9	犬の病気1								
10	犬の病気2								
11	猫の病気1								
12	猫の病気2								
13	前期のまとめ								
14	皮膚疾患1								
15	皮膚疾患2								
16	消化器疾患								
17	呼吸器疾患								
18	循環器疾患								
19	整形、神経疾患								
20	内分泌疾患								
21	口腔内疾患								
22	腎泌尿器疾患								

23	眼科疾患			
24	若齢動物の注意点			
25	老齢動物の注意点			
26	人獣共通感染症			
27	後期のまとめ			
28～29	総復習			
成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない
成績評価基準	A評価	出席率100％・定期試験や小テスト100点・平常点 優れている		
	B評価	出席率99～90％以上・定期試験や小テスト99～90点以上・平常点 普通		
	C評価	出席率89～80％以上・定期試験や小テスト89～80点以上・平常点 やや劣る		
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合		

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科				コース名	ドッグトレーナーコース	
科目名	選択演習(インストラクター専攻)					必修・選択必修の別	選択必修
実施期	1年	前期	-	時間	後期	-	時間
	2年	前期	252	時間	後期	258	時間
	注釈) 上記科目を選択した学生のみ対象					授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	510 時間
担当講師	大川 隼人						
	実務経験	有	JAHA認定 家庭犬しつけインストラクター取得。個人宅への出張でのレッスンや動物病院でのしつけ教室を開催。				
授業概要	マナーハンドラーテストやしつけ教室の開催を通じて、インストラクターとして必要な知識・技術を身につけ、一般の飼い主へ家庭犬との適切な暮らし方やしつけ方を教えられるスキルを学ぶ。					授業形式	演習
到達目標	・マナーハンドラーテスト(MHT)の受験を通して家庭犬に必要なしつけの技術を身につける ・一般の飼い主へ犬の暮らし方やしつけ方に関するアドバイスができる						
教科書・教材・ 服装等	犬と猫との暮らしの教科書、実習着、スニーカー、メモ帳 フードポーチ、リード(太、細)、Pリード、スリッカー、コーム、ウェットティッシュ						
授業計画時間数	授業内容						
1～6	前期スケジュール説明、授業の進め方説明、犬のほいくえん説明、カルテ・連絡帳記入練習						
7～12	社会性チェック、室内外、外的要因チェック、ノーズワーク担当犬決め、班決め						
13～18	担当犬決め、MHT試験内容把握、担当犬との関係性づくり						
19～24	ほいくえんお預かり練習(PD使用)、カルテ・連絡帳記入練習座学/基礎【クレートトレーニング】						
25～30	初めての器から食べる、慣らし、座学【ノーズワークとは?】						
31～36	MHT試験内容と動きの確認、基本動作の確認						
37～42	ほいくえんお預かり練習(PD使用)、カルテ、連絡帳記入練習、座学/基礎【トイレトレーニング】						
43～48	ノーズワークの基本、座学【ノーズワークの4つの効果】						
49～54	MHT模擬試験①(ごほうびあり、全項目)						
55～60	犬のほいくえん①、座学/問題行動【吠え】						
61～66	立体的対象物への慣らし、座学【一般家庭犬と作業犬の違い】						
67～72	犬のほいくえん②、座学/問題行動【飛びつき】						
73～78	風の流れを考える、座学【メリットとデメリット】						
79～84	項目練習、トレーニング手順の確認、合図の確実性を上げる						
85～90	犬のほいくえん③、座学/問題行動【引っ張り】、犬具復習、校外散歩①						
91～96	お散歩との匂い嗅ぎの差、座学【レベルの上げ下げ】						
97～102	項目練習、ワイロと報酬の違い、合図の確実性を上げる						
103～108	犬のほいくえん④、座学/基礎【呼び戻し】、外でのトレーニング						
109～114	犬のアラートを考える、達成目標決め						
115～120	MHT模擬試験②(ごほうび後出し、全項目)						
121～126	犬のほいくえん⑤、座学/問題行動【拾い食い】、校外散歩②						
127～132	アロマに移行する、座学【アロマの種類、爆薬】						
133～138	項目練習、報酬の出し方						
139～144	犬のほいくえん⑥、座学/問題行動【噛み】、おもちゃ作り						
145～150	犬のストレスサインを見る、座学【応用：お散歩とノーズワーク】						
151～156	項目練習、ごほうびを無くす						
157～162	犬のほいくえん⑦、座学/問題行動【破壊】、知育玩具復習、実践						

163～168	環境の多様性を意識する、座学【応用：バンジートレーニング】
169～174	MHT模擬試験③(ごほうび無し、全項目)
175～180	犬のほいくえん⑧、座学/基礎【体を触る練習】、歯磨き練習、ハズバンダリートレーニング
181～186	隠すものを変える、座学【応用：社会性の構築①】
187～192	項目練習、試験対策
193～198	犬のほいくえん⑨、座学/問題行動【攻撃行動、守り行動】、生活するためのルール作り
199～204	他臭（ダミー）を交える、座学【応用：社会性の構築②】
205～210	MHT模擬試験④(ごほうび無し、全項目)
211～216	MHT最終調整(担当PD使用)、貸し切り練習
217～222	社会性チェック、初回と比べて変わったことを観察、達成度チェック①
223～228	MHT本試験
229～234	犬のほいくえん⑩、参観日準備、校外散歩③
235～240	理解度チェック、達成度チェック②
241～246	MHT追試験、筆記テスト
247～252	筆記テスト、犬のほいくえん⑪、ほいくえん参観日
253～258	ほいくえん①、後期スケジュール説明
258～264	アジリティー基礎練習①
265～270	ほいくえん②、しつけ教室 目的、内容決め
270～276	ほいくえん③、座学【犬を飼う前に】、校外散歩①
277～282	アジリティー基礎練習②
282～288	ほいくえん④、しつけ教室体験(模擬しつけ教室)
289～294	ほいくえん⑤、座学【商品知識①】
294～300	アジリティー基礎練習③
301～306	ほいくえん⑥、教室の内容の動き、教える手順の確認
306～312	ほいくえん⑦、座学【商品知識②】、校外散歩②
313～318	ほいくえん⑧、ポスター作成、「説明する」
319～324	ほいくえん⑨、ポスター提出
325～330	ビギナーコース練習①
331～336	ポスター掲示依頼、集客・宣伝、「デモをしながら説明」
337～342	ほいくえん⑩、座学【犬の食①】、校外散歩③
343～348	ビギナーコース練習②
349～354	ビギナーコース練習③
355～360	ほいくえん⑪、「全体に向けて説明＆練習」
361～366	ほいくえん⑫、座学【犬の食②】
367～372	ノービスコース練習①
373～378	ほいくえん⑬、「個別指導」
379～384	ほいくえん⑭、座学【犬の健康管理】、校外散歩④
385～390	ほいくえん⑮、トラブルシューティング
391～396	ほいくえん⑯、座学【年齢別のケア・トレーニング】
397～402	ノービスコース練習②
403～408	しつけ教室リハーサル①
409～414	ほいくえん⑯、座学【グリーフケア】、校外散歩⑤
415～420	ノービスコース練習③
421～426	しつけ教室リハーサル②
427～432	ほいくえん⑰、しつけ教室準備
433～438	アジリティーテストコース練習①
439～444	ほいくえん⑱、しつけ教室準備

445～450	アジリティーテストコース練習②			
451～456	しつけ教室①（オリエンテーション、学生アシスタント）			
457～462	ほいくえん⑱、しつけ教室準備、校外散歩⑥			
463～468	アジリティーテストコース練習③			
469～474	しつけ教室②（学生アシスタント）			
475～480	ほいくえん⑳、しつけ教室準備、校外散歩⑦			
481～486	アジリティーコンペ			
487～492	しつけ教室③（学生成果発表）			
493～498	ほいくえん㉑、しつけ教室参加者アフターケア			
499～504	筆記テスト、アジリティーコンペ予備日			
505～510	筆記テスト			
成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・定期試験や小テスト			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		○	実施しない
成績評価基準	A評価	実技・筆記試験80点以上 出席率80％以上、平常点優れている		
	B評価	実技・筆記試験60点以上 出席率60％以上、平常点普通		
	C評価	実技・筆記試験40点以上 出席率50％以上、平常点やや劣る		
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合		

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科				コース名	ドッグトレーナーコース	
科目名	選択演習(訓練専攻)					必修・選択必修の別	選択必修
実施期	1年	前期	-	時間	後期	-	時間
	2年	前期	252	時間	後期	258	時間
	注釈) 上記科目を選択した学生のみ対象					授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	510 時間
担当講師	杉浦一希						
	実務経験	3年	犬トレーニング玩具輸入販売会社に就職、犬関連イベントへの出店・企画、関連グループ会社にて遊びを通したトレーニングを実践				
授業概要	犬の行動を理解し、トレーナーとして必要な技術・知識を用いた犬に負担の少ないトレーニング方法を考え、実践し技術を身に付ける					授業形式	演習
到達目標	JKC家庭犬訓練試験受験・合格、犬の行動を理解し行動修正の為に必要な行動形成を考え犬へ伝える技術を磨く						
教科書・教材・ 服装等	実習着、フードポーチ、リード、ケア道具、スニーカー(インヒール不可)、ノート・筆記用具						
授業計画時間数	授業内容						
1～6	自己紹介レポート記入、1年間の流れ、担当犬の適性チェック、規定集の配布・確認/実習：科目の組み立て(細分化)、脚側・停座練習						
7～12	社会性チェック、室内外、外的要因チェック、ノーズワーク担当犬決め、班決め						
13～18	実習：科目の組み立て(細分化)、脚側・停座練習						
19～24	実習：科目の組み立て(細分化)、伏臥・立止練習						
25～30	初めての器から食べる、慣らし、座学【ノーズワークとは？】						
31～36	実習：科目の組み立て(細分化)、伏臥・立止練習						
37～42	実習：科目の組み立て(細分化)、脚側行進						
43～48	ノーズワークの基本、座学【ノーズワークの4つの効果】						
49～54	実習：科目の組み立て(細分化)、脚側行進						
55～60	実習：自由選択科目選び、科目の組み立て(細分化)、自由選択練習						
61～66	立体的対象物への慣らし、座学【一般家庭犬と作業犬の違い】						
67～72	実習：JKC家庭犬訓練試験CDⅠ模擬試験（犬無し）						
73～78	風の流れを考える、座学【メリットとデメリット】						
79～84	実習：5科目練習						
85～90	実習：5科目練習						
91～96	お散歩との匂い嗅ぎの差、座学【レベルの上げ下げ】						
97～102	実習：自由選択科目選び、科目の組み立て(細分化)、自由選択練習						
103～108	実習：自由選択科目選び、科目の組み立て(細分化)、自由選択練習						
109～114	犬のアラートを考える、達成目標決め						
115～120	実習：5科目練習						
121～126	実習：5科目練習						
127～132	アロマに移行する、座学【アロマの種類、爆薬】						
133～138	実習：5科目練習						
139～144	実習：JKC家庭犬訓練試験CDⅠ模擬試験（犬あり）、5課目練習						
145～150	犬のストレスサインを見る、座学【応用：お散歩とノーズワーク】						
151～156	実習：5科目練習						

157～162	座学：ポリスドッグ /実習：5科目練習
163～168	環境の多様性を意識する、座学【応用：バンジートレーニング】
169～174	実習：5科目練習
175～180	実習：5科目練習
181～186	隠すものを変える、座学【応用：社会性の構築①】
187～192	5科目練習
193～198	実習：5科目練習
199～204	他臭（ダミー）を交える、座学【応用：社会性の構築②】
205～210	実習：JKC家庭犬訓練試験CDⅠ模擬試験（犬あり）、5科目練習
211～216	実習：5科目練習
217～222	社会性チェック、初回と比べて変わったことを観察、達成度チェック①
223～228	実習：5科目練習
229～234	実習：5科目練習
235～240	理解度チェック、達成度チェック②
241～246	実習：5科目練習
247～252	実習：JKC家庭犬訓練試験CDⅠ模擬試験（犬あり）、5科目練習
253～258	実習：5科目練習
258～264	アジリティー基礎練習①
265～270	実習：10課目練習
270～276	実習：10科目、仔犬の育て方①、ケーススタディ①
277～282	アジリティー基礎練習②
282～288	実習：10課目練習
289～294	実習：10科目、仔犬の育て方②、ケーススタディ②
294～300	アジリティー基礎練習③
301～306	実習：10課目練習、JKC家庭犬訓練試験CDⅡ模擬試験（犬無し）
306～312	実習：10科目、仔犬の育て方③、ケーススタディ③
313～318	実習：10課目練習
319～324	実習：10課目練習
325～330	ビギナーコース練習①
331～336	実習：10科目、仔犬の育て方④、ケーススタディ④
337～342	実習：10課目練習、JKC家庭犬訓練試験CDⅡ模擬試験（犬あり）
343～348	ビギナーコース練習②
349～354	ビギナーコース練習③
355～360	実習：10科目、行動問題①問題の確定、ケーススタディ⑤
361～366	実習：10科目、行動問題②行動の形成、ケーススタディ⑥
367～372	ノービスコース練習①
373～378	実習：10課目練習
379～384	実習：10科目、行動問題④行動の修正を振り返る、ケーススタディ⑧
385～390	実習：10課目練習
391～396	実習：10科目、臭気選別①
397～402	ノービスコース練習②
403～408	実習：10課目練習、JKC家庭犬訓練試験CDⅡ模擬試験（犬あり）
409～414	実習：10科目、臭気選別②
415～420	ノービスコース練習③
421～426	実習：10課目練習
427～432	実習：10科目、臭気選別③
433～438	アジリティーテストコース練習①

439～444	実習：10課目練習			
445～450	アジリティーテストコース練習②			
451～456	実習：10課目練習、JKC家庭犬訓練試験CDⅡ模擬試験（犬あり）			
457～462	実習：10科目、臭気選別④			
463～468	アジリティーテストコース練習③			
469～474	実習：10課目練習			
475～480	実習：10科目練習			
481～486	アジリティーコンペ			
487～492	実習：10課目練習			
493～498	実習：10科目練習			
499～504	筆記テスト、アジリティーコンペ予備日			
505～510	実習：10課目練習			
成績評価方法	・出席率	定期試験		筆記試験
	・授業内で行う筆記試験			実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）		○	実施しない
成績評価基準	A評価	実技・筆記試験80点以上 出席率80%以上、平常点優れている		
	B評価	実技・筆記試験60点以上 出席率60%以上、平常点普通		
	C評価	実技・筆記試験40点以上 出席率50%以上、平常点やや劣る		
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合		

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科					コース名	ドッグトレーナーコース		
科目名	PDマネジメント						必修・選択必修の別		必修
実施期	1年	前期	-	時間	後期	-	時間	授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	150 時間
	2年	前期	78	時間	後期	72	時間		
授業講師	今井恵美								
	実務経験	有	3ヵ所のサロン/ペットショップでの実務経験、トリミングサロン開業歴有。研修/セミナー講師・ブリーディング（繁殖/育成/DogShow）複数（PSIA/AAVなど）のトリミング試験及びコンテスト審査員資格所持。養成機関教師資格所持/JKC千葉ブロックトリマー委員会副委員長						
授業概要	動物を扱う職業に必要な飼育管理、生体知識・基本のお手入れを身に付けさせる。実践的なケネルワークやグルーミング実習を行い現場で即戦力となる技術と知識を学ぶ。							授業形式	実習
到達目標	助言や手助けなく一通りのケネルワークが出来るようになる。基本のグルーミングが1人でも出来るようになる事を到達目標とする。								
教科書・教材・服装等	実習着、グルーミング道具								
授業計画時間数	授業内容								
1~12	グループ分け、授業の目的・諸注意 グルーミング・ケネル実習								
13~31	グルーミング・ケネル実習								
32~38	犬の扱い方、グルーミング道具の使い方を確認								
39~75	グルーミング・ケネル実習								
76~82	犬の扱い方、グルーミング道具の使い方を確認								
83~107	グルーミング・ケネル実習								
108~114	犬の扱い方、グルーミング道具の使い方を確認								
115~137	グルーミング・ケネル実習								
138~150	グルーミング・ケネル総復習								
成績評価方法	・出席率					定期試験		筆記試験	
	・平常点（技術習得度・授業参加意欲など）							実技試験	
							○	実施しない	
成績評価基準	A評価	出席率90%以上・平常点 優れている							
	B評価	出席率85%～89%以上・平常点 普通							
	C評価	出席率80%～84%以上・平常点 やや劣る							
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合							

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科					コース名	ドッグトレーナーコース		
科目名	業界インターンシップ					必修・選択必修の別		必修	
実施期	1年	前期	-	時間	後期	-	時間	授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	150 時間
	2年	前期	-	時間	後期	150	時間		
担当講師	各企業様								
	実務経験	有							
授業概要	動物病院やペットショップ、動物関連施設にてインターンシップを行い、現場のサービスを学ぶ。						授業形式	実習	
到達目標	動物関連企業等で実践業務を学び、知識の向上を図る。								
教科書・教材・服装等	無し								
授業計画時間数	授業内容								
1～150	各企業での施設の見学、各企業の接客ルールやマナーの習得。								
	店舗での実践的な実習。								
	3つの企業をそれぞれ7日間程度インターンシップを行う。								
成績評価方法	・企業担当者による勤務・業務管理を実習手帳上で行う					定期試験		筆記試験	
	・レポート提出							実技試験	
							○	実施しない	
成績評価基準	R評価	100時間以上のインターンシップ実績があること。実習手帳、レポートを提出した者							
	F評価	R評価の基準を満たしていない場合							

2024就職ガイドシラバス（授業計画）

学科名	動物管理科				コース名	ドッグトレーナーコース	
科目名	就職ガイド2					必修・選択必修の別	必修
実施期	1年	前期	- 時間	後期	- 時間	授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	20 時間
	2年	前期	14 時間	後期	- 時間		
	3年	前期	時間	後期	- 時間		
	※1年次合同企業ガイダンス6コマ含む						
担当講師	荒井 千鶴						
	実務経験	無					
授業概要	動植物業界で求められる人材の育成。企業インターンシップや就職活動での必要な知識を身につけ内定へと繋げる。					授業形式	講義
到達目標	自己分析と企業研究を行い、全員が内定を頂ける様にしていくな事を目標とする。						
教科書・教材・服装等							
授業計画時間数	授業内容						
1	就職室の紹介/就職活動に向けて（内定スケジュール）						
2	履歴書の復習(自己PR・志望動機)・採用試験の流れ・夏季ISについて						
3	メールの送り方						
4	企業説明会①						
5	企業説明会②						
6	求人情報の紹介						
7	IS事前準備①						
8	ISを依頼する際の電話の掛け方・ロールプレイング						
9	面接対策						
10	IS事前準備②（実施確認書と注意点）						
11	夏休み中の就活の取り組み方						
12	お礼状・送付状の作り方						
13～14	IS心構えとフィールドワーク・レポート提出						
成績評価方法	・出席率				定期試験		筆記試験
	・期末レポート提出						実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）					○	実施しない
成績評価基準	R評価	出席率80％以上・提出物・平常点 優れている					
	F評価	R評価の基準を満たしていない場合					

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科					コース名	ドッグトレーナーコース		
科目名	コミュニケーション					必修・選択必修の別			必修
実施期	1年	前期	-	時間	後期	-	時間	授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	29 時間
	2年	前期	14	時間	後期	15	時間		
担当講師	荒井 千鶴								
	実務経験	無							
授業概要	社会人として必要な知識やコミュニケーション能力を学校生活を通じて会得していく。							授業形式	講義
到達目標	社会人としてのビジネスマナーやコミュニケーション能力を身に付ける。								
教科書・教材・服装等	無し								
授業計画時間数	授業内容								
1	2年次の学校生活について①								
2~3	学校行事についてのディスカッション①								
4~5	学校行事についてのディスカッション②								
6~7	学校行事についてのディスカッション③								
8~9	学校行事についてのディスカッション④								
10~11	学校行事についてのディスカッション⑤								
12~13	学校行事についてのディスカッション⑥								
14~15	学校行事についてのディスカッション⑦								
16~17	学校行事についてのディスカッション⑧								
18~19	学校行事についてのディスカッション⑨								
20~21	学校行事についてのディスカッション⑩								
22~23	学校行事についてのディスカッション⑪								
24~25	学校行事についてのディスカッション⑫								
26	学校行事についてのディスカッション⑬								
27	学校行事についてのディスカッション⑭								
成績評価方法	・出席率					定期試験		筆記試験	
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）							実技試験	
							○	実施しない	
成績評価基準	R評価	出席率80％以上・提出物・平常点 優れている							
	F評価	R評価の基準を満たしていない場合							